

写真：カネシゲメモリアルパークの碑石（墓）

## フィリピン・ネグロス視察ツアー報告2 若手を中心に10名がネグロス島を訪問しました

前号に引き続き、2月17日から21日に行なわれた、「フィリピン・ネグロス視察ツアー」の報告2をお届けします。

◎2月19日（水）

朝8時にバコロド市内の宿を出発し、ラ・カルロータ市ハギミット地区にあるカネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KF-RC）へ向かいました。大型バンに揺られて約1時間、途中、ラ・カルロータ市の中心地にあるスーパーマーケット・ロペスに到着。

ロペスは庶民的なスーパーマーケットで、バコロド市内のモールなどの都会価格と比べると全体的に安価な品揃えです。商品の多さには若干圧倒されつつ、KF-RCへの手土産にスナックや飲み物、ミネラルウォーターや夕食時のアルコールなどを購入しました。

ロペスを出てから20分程度でKFに到着、農場のスタッフ、研修生が迎えてくれました。まずはバンから荷物を下ろして、部屋へと案内してもらいひと息つきました。部屋は大部屋に10台並べられた木製のベッドがあり、全員が同じ部屋で雑魚寝（ぎょこね）です。「高校の修学旅行以来だよ」などとい

う声も聞こえてきました。この歳になると学生と言うよりは、何かの訓練所のような雰囲気です。10時からKF-RCのスタッフと研修生の紹介があり、KF-RC事務局長のエリマーさん（通称：エムエム）から、KF-RCの紹介と設立の目的などについての話しを伺いました。

◎エリマーさんの説明

『KF-RCはバランゴンバナナやマスコバド糖のサトウキビ生産者や現地の農民たちが集まって、農法や技術に関する学びや経験を共有しあう場（ルーラルキャンパス）として、2009年7月1日に開校しました。5haに広がる農場では、養豚（母豚は約30頭）と野菜生産を中心とした有畜複合の循環型農業を実践しています。

豚以外にも鶏、ヤギ、アヒル、カラバオ（水牛）などもいます。豚舎から出る糞尿廃水を利用した循環システムとして、バイオガスプラント（メタン発酵）とBMW

技術の複合設備を構築し、農場内のエネルギー自給に向けて取り組んでいます。

また、地域の次世代の担い手となる若者たちが研修生として住み込み、循環型の有機農業を学んでいます。KF-RCで研修を受けた若者たちは、地域に戻って地元で循環型農業を取り組み始めています。この取り組みは特定非営利活動法人APLA（BMW技術協会会員）が共に行なっています。こうした取り組みが注目を集め、近隣の小学校、行政、海外からの訪問・視察も多く受けるようになっていきます。』

次に農場内の視察です。はじめに飲水改善プラントと生物活性水プラントへ。飲水改善プラントは土木槽50t×2槽と約10tの自然石槽が1槽です。生物活性水プラントは200Lのタンク×5槽の小型です。原料はバイオガスプラントから排出される消化液（スラッジ）です。以前はバイオガス



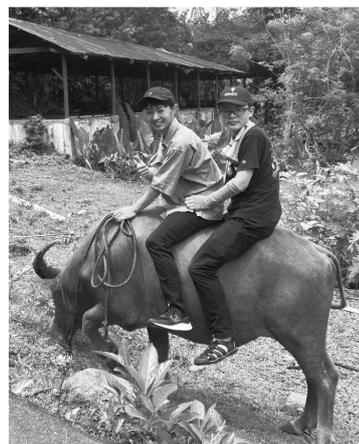
スーパーロペスの店内



KF-RCの説明をするエリマーさん



BMWプラントの見学



カラバオに乗る二人

プラントに併設された1槽が50t×3槽の土木槽を利用していましたが、度重なる台風などによる屋根の破損、電気代の急な高騰もあり、コンパクトなものに変更されました。

生物活性水は定期的に飲水へ添加、野菜の栽培にも活用しています。プロワーの稼働時間は1日に8〜12時間程度にしています。

続けて、バイオマスプラントを見てから畑へ向かいました。途中でカラバオがいたので、若手二人が乗馬ならぬ乗水牛に挑戦。何ともぎこちない乗り方ではありましたが、本人達のご満悦の様子だったので良かったのではないのでしょうか。次に夕食のご馳走、Lechon(レチヨン〜子豚の丸焼き)を焼いているところへ。5〜6時間ゆっくりと炭火で焼き上げていくそうので、ここでは子豚をグルグルと回す作業に挑戦しました。単純そうですがゆっくりと子豚を回す作業が意外と難しく、食べるのは簡単ですが、長時間焼いて回し続けるのは大変な作業です。想像しただけで美味しいに決まっていますが、夜までおあずけです。



子豚をゆっくり回す四釜昌和さん(米沢郷牧場グループ)

やっと畑に到着しました。畑にはトウモロコシ、長インゲン、カボチャ、ナス、シシトウなど10数種類の野菜が栽培されていました。その他にも、ランブータンやランソーンネス、マンゴーなど南国ならではのフルーツの木が植えられています。さらにKFERCでは、今年からランゴンバナナの栽培を始めました。長年の思いがようやく、順調にいけば今年の7月から8月頃には日本でKFERCのランゴンバナナが食べられるかもしれません。

また、前日訪れたATP(オルター・トレッド・フィリピン社)と一緒に、ランゴンバナナの栽培実験、堆肥の検証なども始めています。きっと、農場の名前の由来となっている、兼重正次氏(グリーンコープ連合(当時)の元専務)も喜んでいいると思います。将来はネグロスにおけるランゴンバナナ栽培の核となる農場になることを願っています。



植え付けて間もないランゴンバナナ

ています。

農場見学の最後は、兼重さんのお墓があるカネシゲメモリアルパークへ。ここには、2020年に亡くなった、秋山眞兄氏(APLA元共同代表)も分骨され眠っています。計画では、オルター・トレッド・ジャパンの創設者、堀田正彦氏の遺灰を埋葬し、生田喜和氏(オルター・トレッド・ジャパン元代表)と合わせて碑石(墓)を作る予定です。今年の8月6日には、KFERCの創設時に代表だった、アルフレッド氏と合わせて6名を偲ぶセレモニーが行なわれます。そのセレモニーに参加するネグロスツアーを、オルター・トレッド・ジャパン、APLA、BMW技術協会の3社による共催で、8月5日〜8日の日程で開催します。

(報告 BMW技術協会 秋山澄兄) ◆次号(最終回)に続きます。



カネシゲメモリアルパークにて



◎高知県  
プラント点検報告

3月19〜21日に高知県内の3か所のプラント点検とプラント巡回を実施しました。高知県では毎年3月と9月に点検と巡回を行なっています。

①四万十町 十和堆肥センター

3月19日(水)、四万十川の中流域・四万十町広瀬にある十和堆肥センターの生物活性水プラントの定期点検を実施しました。プラントは土木槽で10t×4槽と5t×3の自然石槽です。原料はこのセンターで製造されている牛糞堆肥です。担当部署の十和地域振興課の高橋さんと、プラントの日常管理をいただいている耕作農家の宮地さんと一緒にリアクターの充填材の交換と各槽の計測、点検を行いました。生物活性水のECは1.61mS/cm、pHは8.1、亜硝酸態窒素は不検出でした。

原料の牛糞堆肥は、約4kg入った袋を7袋、宮地さんが定期的に交換しています。できあがった生物活性水は、牛糞堆肥の製造(水分調整と消臭)に利用するほか、十和地域の耕作農家がプラントまで取りに来て、自由に使うことができます。宮地さんご自身もこれから準備に入るシシトウ栽培に利用する予定です。

②高知市 とさやま土づくりセンター

3月20日(木)、夢産地とさやま開発公社が運営する、とさやま土づくりセンターにて生物活性水プラントの点検を実施しました

プラントは5トンのホーロータンク×5槽が第一と第二の2系統あります。点検は堆肥製造担当の山崎博さんと一緒にリアクターの充填材の交換と各槽の計測、点検作業を行いました。

生物活性水のECは、第一系統が1.20mS/cm、第二系統が1.17mS/cmでした。

生物活性水の原料は牛糞が主体で、特産品のユズの皮や四方竹の皮、また高知市内の生協の店舗から出る野菜くずや魚のアラなど地域の未利用資源を活用して作られた堆肥です。この堆肥は、有機たい肥「BMとさやまモ「モ」」として袋詰めして販売をしています。



十和堆肥センターにて高橋さん(左)と宮地さん



とさやま土づくりセンターの堆肥を準備する山崎さん



高知農業高校の生物活性水プラント

③南国市 高知県立高知農業高校

3月21日(金)、高知農業高校の畜産総合科にて、生物活性水プラントのリアクター充填材の交換と定期点検を実施しました。

生物活性水のECは、0.45mS/cmと前回の点検時(2024年9月)より高くなってきましたが、引き続き原料の堆肥交換を定期的に行なってもらうようお願いをしました。最終槽には生物活性水の取り出し用のホースが付いており、生徒が簡単にバケツにくみ出すことができるようになっていました。

生物活性水は、畜舎から出る牛糞、豚糞等を原料にした堆肥づくり、畜舎内の洗浄時に散布するなどで利用しています。攪拌発酵槽では、原料の畜糞投入に近いところでもアンモニア臭はなくなっています。

(報告:匠集団そら 星加浩二)

◎方波見農園(茨城県銚田市)

生物活性水プラント稼働開始

3月19日(水)、茨城県銚田市の方波見農園に設置した生物活性水プラントの培養調整の確認作業を行いました。

生物活性水プラントは、今年の1月21日(火)〜22日(水)に、方波見農園の方波見洋一さんと株式会社ミクロコスモス茨城の市丸幸さんに工事のお手伝いをしていただき、設置作業を行いました。

プラントは、1000Lのバルクタンク6槽を一列に並び、500Lのローリータンクを堆肥有機物抽出槽として使用しています。

各槽には軽石、花崗岩、蛇紋岩を設置し、ローリータンクにBM活性堆肥を原料として入れ、曝気をして1月より培養調整を始めました。その後の培

養調整は、1週間ごとに1槽ずつ水を移しながら培養を進めてきました。

培養を始めてから約2ヶ月、最終槽の水質測定を行いました。EC値は0.76mS/cm、pHが8.3と培養が順調に進んできているので、分析機関にて最終槽の亜硝酸態窒素と大腸菌の数値を測定するための採水を実施しました。これで培養プロセスは完了となり、本格稼働が開始となります。

方波見農園は、主にメロンを栽培されています。出来上がった生物活性水は、メロン栽培の土壌への希釈灌水を行うことで、土壌微生物を活性化させ、またミネラルの補給も狙っているとのことでした。

(報告:匠集団そら 遠藤尚志)



岩石を吊す、市丸さん(左)と方波見さん



方波見農園の生物活性水プラント



各槽の生物活性水

## グリーンコープ生協くまもと BMW技術学習会開催

2月25日(火)、グリーンコープ生協くまもとでBMW技術学習会が開催されました。会場は熊本市内にあるグリーンコープ生協くまもと本部の会議室で、会場参加とオンライン参加のハイブリッドで開催されました。会場参加は、組合員、事務局含め32名、オンラインは23名と多くの方が参加されました。講師はBMW技術協会の秋山澄兄事務局長、そしてグリーンコープBM事務局の宮崎と秦が同席しました。

BMW技術の基礎から始まり、畜産、耕種農業、堆肥作りなどでのBMW技術の活用事例、そして「暮らしの中のBMW技術の活用」では実例を織り交ぜながら説明いただきました。



グリーンコープ生協くまもとの学習会

会場では次の質疑応答が行なわれました。

Q: ペットの飲み水と水槽に使っています。カタログやBMそらを記載されている使用倍率はどのように決めているのでしょうか。

A: 色々な倍率で試して決めました。ちなみに、水槽は1000倍より濃いと藻が生えてきます。私は水槽の水が蒸発した分を5000倍くらいに希釈して、足しています。濃くても悪くなることはありませんので、色々な倍率を試してみてください。

Q: 自宅にコンポストがあり、ハエが発生します。BMそらを使ったらハエの発生を抑制することができそうですか。

A: 生ごみを入れた後に生ごみが見えなくなる程度土を入れる頻度を上げる。そしてBMそらをかけていただくと思えます。

● 学習会後に参加された方から感想をいただきましたので、一部を紹介させていただきます。

● 実際に購入していたものの、ペットの飲み水に希釈して使用するしか活用できておらず、宝の持ち腐れになっていました。学習会の前半は難しい事もありましたが、生活の中で出る汚れた水などを循環して地球に還す事は、せっけんを利用して地球を大切にすることと近いと感じました。

● BMW技術は地球の営みをそのまま小さくしたような、小さな地球を手元で再現できる、とてもワクワクできる技術だと思います。

● BMそらはペットの飲水や、メダカの水槽、家庭菜園で使用していて、お話を聞くのは初めてでした。倍率など使用方法を聞けてとても良かったです。

● どん菌を使用されているのか気になっていましたが、特定の菌ではなく、そこにいる菌(土着菌)を使用されているの事がわかりました。

● 自然界のバクテリアの働きを活かして水を浄化するという考え方は、環境にやさしいだけでなく農作物の成長促進や土壌改良にも繋がっていて、お話を聞きながらわくわくしました。

● 水は人が生きるために必要不可欠、地球にとって大切なものです。その水が循環する事で環境も守ることになるBMW技術は大切な技術だと思います。生きた土で育った野菜や動物はきつと健康だと思います。畑はないのですがまずはお花の水やこれから気なる生ゴミの臭いに使ってみたいと思います。

● 自宅で犬を飼うことになり、犬の口臭と体調が気になり、BMそらをカタログで購入し飲み水に入れて飲ませています。お腹の調子も良く、口臭も和らいだようです。

(グリーンコープBM事務局 秦武士)

## 糸島BM農法研究会 BMW技術学習会開催

3月15日(土)、糸島BM農法研究会の生産者を対象にした学習会が開催されました。糸島BM農法研究会は、福岡県糸島市で、長ねぎ、にら、水菜、ブロッコリー、パクチーなどの葉野菜や、ミニトマト、ミニパプリカなどの果菜類を生産しているグループです。

昨年11月に秋田県で開催された全国交流会では、生物活性水を使って実際に出荷している品目を播種から収穫まで栽培するなどのような違いがあるのか実験し、発表されています。

糸島BM農法研究会での学習会は2023年9月に開催して以来です。学習会の前後に畑を見学させていただきました。

最初は、集合場所となっていた柴田周作さんの自宅に設置されているBMプラントを点検しました。柴田さんのBMプラントは全国の中でも珍しい、自宅の便槽が原料となっており、モダンな肥溜めのようなBMプラントとされています。最終槽を測定したところ、ECは8.27ms/cm前後、pHは3.3前後、亜硝酸態窒素は0.5以上でした。酸性が強くなっていましたが、柴田さんは「酸性の生物活性水の方が病害虫の予防に効果があるのではないかと考えられているそうです。そして柴田さんの水菜とほうれん草を栽培して

いるハウスと育苗用のハウスを見学させていただきました。育苗用のハウスでは、電熱マットを敷いて、その上に温水を入れた容器を置き、ビニールで囲ったミニ加温ハウスなどもあり、色々な工夫をされている様子を見ることができました。

その後、すぐ隣にある長糸コミュニティセンターで学習会が開催されました。参加者は糸島BMW農法研究会の生産者6名、講師はBMW技術協会の秋山澄兄事務局長、そして西日本BMW技術協会事務局の宮崎と秦が同席しました。

学習会では、糸島BMW農法研究会のメンバーが生産している作物で、過去に実験・事例発表したデータをまとめ、たものや「耕種農業における生物活性水の使用ガイド」を使いながら、農業における活用を中心に説明いただきました。各産地での事例や活用方法を説明いただきながら、「この堆肥はどのように作っているのか」、「自分はどのようにしている」、「このやり方はどうなっているのか」など質問や意見交換しながらの学習会となり、予定時間を超えてしまいました。とても内容の濃い学習会でした。

学習会後は、いらを生産している平野洋平さんのハウスを見学させていただきました。平野さんは周年栽培されており、播種前の種を生物活性水で浸漬させたり、紅会の井上養豚場の豚糞

堆肥を活用されています。見学させていただいたハウスは6月に定植し、11月から3月末まで出荷する作型です。

昨年夏の雨不足と高温で活着が悪く、生育が良くなかったことから収穫後の出荷作業にかなり手間が掛かったとのことでした。隣のハウスは収穫を終え、マルチシートを外して耕している途中でした。収穫後のにはそのまま畑にすき込んでいるそうです。その後、堆肥やもみ殻などを投入して次作に向けて準備していくそうですが、長年いらを連作しているが連作障害がまったく出ないそうです。

糸島BMW農法研究会は、昨年に続き、今年も生物活性水を使った実験に取り組むことになっています。11月に茨城県で開催される全国交流会での発表が楽しみです。

(西日本BMW技術協会事務局 秦武士)



糸島BMW農法研究会の学習会

## BMW トピックス

### ◎BMW技術学習会 生活クラブ生協大阪 環境委員会

3月10日(月)、大阪府枚方市の生活クラブ生協大阪・尊延寺センターにて、同生協の環境委員会主催のBMW技術学習会が開催されました。参加者は10名、講師はBMW技術協会事務局の秋山です。

学習会はBMW技術を活用している生活クラブ大阪の生産者紹介、次にBMW(バクテリア・ミネラル・ウォーター)の基礎、BMW技術の農業での実践例の紹介、そして生物活性水の家庭での使い方について話しをさせていただきました。

話しの中で、参加された皆さんからの質問や意見や生物活性水の自身の活用の紹介など多くいただき、終わってみればノンストップで2時間半、学習会というよりはワークショップのよう

な感じでした。話しの中で、参加された皆さんからの質問や意見や生物活性水の自身の活用の紹介など多くいただき、終わってみればノンストップで2時間半、学習会というよりはワークショップのよう



尊延寺センターの生物活性水プラントにて

うな形で充実した学習会となりました。学習会後は、尊延寺センターに設置されている生物活性水プラントを見学しました。プラントを目の前にして生物活性水ができる過程を、直にお伝えできるのはとてもわかりやすかったと思います。今後、多くの組合員さんが生物活性水を利用していただくことを願っています。

なお、今回はダブルヘッダーで、夕方からは生活クラブ生協大阪の各物流センターの支所長の皆さんを対象にした学習会も開催されました。

### ◎やまなし自然塾定時総会

3月24日(月)、山梨県山梨市の夢わく山梨にて、やまなし自然塾の2024年度の定時総会が開催され、25名が出席しました。

総会では2024年度の活動と会計報告、2025年度の活動計画、予算案が提案され、すべて承認されました。

今年度は農業で先進的な取り組みを行なっている産地の視察や、BMW技術全国交流会やセミナーへの参加、学習会の開催などを予定しています。

参加者から、「新しいメンバーも加入しているので交流を含め、農家の技術向上や見聞を広げる活動に力を入れてほしい」という意見があり、萩原貴司会長からは、「今年は農家の技術交流や学習会に力を入れて活動していく」との事でした。



BM  
の人々

産直南島原 (長崎) 林田康一さん

林田康一 (はやしだ こういち) さんは、1968年1月生まれ、57歳で、長崎県南島原市南有馬町で、ジャガイモ・玉ねぎの農家です。現在の林田家には婿養子としてきました。

生まれは同じ南有馬町の白木野という地区で、農家の長男として生まれました。地元の小中学校に通い、県立有馬商業高校を卒業します。

18歳で、地元の農協で働き始めます。購買 (肥料などの資材) 部門で3年、スタンド部門で1年、販売で2年、6年間働いたが、給与が低すぎるので辞めました。

24歳で、農協の職員だった人が始めた葬儀屋さんで働き始めます。

25歳の時に結婚して林田家に入りました。奥さんは、農協のスタンドにアルバイトで来ていた人で、2歳年上です。

結婚しても葬儀屋さんで働いていましたが、28歳の時にお義父さんがケガをしたので、会社をやめて百姓をはじめます。29歳で椎間板ヘルニアの手術をすることになり、半年くらい入院していたそうです。1〜2年くらい何もできず、「農家はダメかな」と思い、葬儀屋でまた働き始めます。2年間くらい葬儀屋で働き、土・日には農業の手伝いをしていました。そうしたらまた、お義父さんがケガをしたので、本格的に農業をすることになります。この時、32歳です。

お義父さんとの関係、どうですか。なかなか反りが合わなかったですね。やはり、同じ農家でも規模が違うしやり方も違っていました。だからあまり聞く関係ではなく、農作業のことも自分で何でも考えながらしてきました。自分の家は、面積が狭かったのでトラクターは持っておらず、トラクターに乗るのも初めてだったのですが、お義父さんにはあまり聞きませんでした。でもそのおかげで、何でも自分で考えてやってみるようになり、結果的には良かった面もあります。

このころのことをもう少し聞かせてください。

当時は、南高有機農法研究会 (以下「南有研」という生産者グループのメンバーでした。35歳のときから、グリーンコープ青果生産者の会の副会長を4年、39歳のときから会長を2年しました。ちょうどその頃、41歳のころ、所属していた南有研の運営を巡って混乱が続きました。結果的に、南有研の5人のメンバーで、新たに株式会社産直南島原で出発することになりました。現在は7人のメンバーで、私が社長をしています。事務所や出荷所は南有研のものを引き継ぎました。

—— 営農について聞かせてください。  
作物はジャガイモと玉ねぎです。ジャガイモは年に2作します。春ジャガと秋ジャガです。  
農地は9haですが、ジャガイモを5haで2作しますので、作付面積として

はジャガイモ10ha + 玉ねぎ4haで14haということになります。最初に引き継いだ時は農地が3haくらいでしたので、3倍くらいになっています。

ジャガイモは、反収 (10a) 4トンくらいです。玉ねぎは反収4〜5トンです。

春ジャガは12月中旬〜2月植え付け、収穫は4月下旬から7月にかけて、秋ジャガは9月植え付けで12月〜1月収穫です。玉ねぎは、早生〜晩生まで9品種を使い分けています。8月20日〜10月20日ごろ種まき、苗を順次植え付け、収穫は2月初めから6月にかけて行います。収穫直前に雨が降ると貯蔵性が悪くなるので、6月初めころには収穫を終えるようにしています。

玉ねぎは雑草対策で黒マルチをします。春ジャガは芽出しのために半分くらい黒マルチ、秋ジャガにはマルチはしません。

—— この面積を何人で作っているのですか。

私と妻、息子の斗真 (とうま) と、それ以外に5人雇用しています。8人にしては営農面積が足りないのですが、どのようにな面積を増やすのが悩みどころです。

—— 斗真さんのことを聞かせてください。  
現在26歳です。高校3年の1学期に、あまり学校に行かなくなって、「もう高校をやめる。畑をする」と言って畑に来ていました。夏休みのあるころ、妻が圃場の石拾いをさせました。相当きつかつ

たようで、友達の家に行って、きつという愚痴をこぼしたら、友達のお母さんから、「学校やめんでおけば、黙って遊んで楽なのに」と言われて、また学校に行く気になったようです。友達のお母さんから私にも電話があつて、高校の先生にも「また、行くそつです。よろしく願います。」との連絡もしてくれました。

それで、高校を卒業して、そのまま農業をやり始めました。先輩や近くに農業を継いだ人が複数いたので、農業をやり易かったのだと思います。決して「父親の背中を見て」跡を継いだのではないと思います。息子の嫁は高校のときの同級生で、そのまま付き合ひ、成人式は妊娠4カ月で迎えました。子ども（孫）が5人です。5歳・4歳・2歳の双子、4人も男で、最後の7カ月になる子が初めての女の子です。

——斗真さんとの関係はどうですか。

私の義父との関係とはまた別の意味で難しいですね。私は自分で考えながら仕事をしてきたので、斗真にもそうなって欲しいと思います。家の仕事は斗真に任せています。畑の作業段取りは斗真にしてもらつており、情報は従業員も含めたLINEで、私にも来るのですが、私の意見は言わないようにしています。もちろん聞かれれば、意見を言います。

——林田康一さんの実家はどつなつて

自分が結婚するときは、すぐ下の弟が、「自分がするから結婚（婿入り）して良い」ということでした。しかし、別の町に引っ越してしまい、実家は両親が2人で農業をしています。玉ねぎが5反とハウスでインゲンを作っています。同じエリアなので、斗真がトラクターで畑の準備などをしていきます。両親は孫に会えるので喜んでいきます。



——BMW技術との関係について聞かせてください。

南有研の時に生物活性水プラントがありましたので、自分が就農した時から堆肥の発酵に使ってきました。産直南島原が発足してからは、紅会の生物活性水を西日本BMW技術協会からもらうようになって、産直南島原の出荷所に5トンタンクを設置し、みんなが使えるようにしました。

——これからやりたいことを聞かせてください。

自分はどうしても、グリーンコープ関係や取引先などの行事に出かけることが多いので、あまり自宅の営農にかかわれないという事情もあり、家の作業は斗真に任せています。

私は農地をやや遠いところでも借りて営農面積を増やしてきました。若干重荷になっていました。実は斗真もそう思ったようで、近所の農家の後継者同士で相談して、近隣の農地の圃場整備をやるうということになります。ホツとしています。

斗真は、引きこもりの友達を作業に引き込んでうまく行くなど、とても良いところがあります。ただ、我が家の営農という意味では、従業員が多すぎて、そして機械化もしてきたので、畑の面積を増やす必要がある状態です。どのように計画を立てるかが重要です。斗真とも相談しながら解決しようと思っています。

生物活性水について、堆肥の発酵に使ってきたのですが、それ以外にも使っています。玉ねぎの苗に使って効果がありません。昨年立枯れもなく、良い苗ができました。玉ねぎの圃場でも2回くらい葉面散布してみています。堆肥場を新たに借りて使えるように工事中ですので、そこでも生物活性水を活用します。

——孫の世話で忙しい中、取材させていただき、ありがとうございました。（聞き手）

西日本BMW技術協会 宮崎利明

## ◎BMWトピックス

「BMW技術協会30周年記念スライド」第33回BMW技術全国交流会にて、皆さんにご覧いただいた、「BMW技術協会30周年記念スライド」のフルバージョンがご覧いただけるようになりました。左記のQRコードにアクセスを



してご覧下さい。スライドではBMW技術とBMW技術協会の30年の歴史をダイジェストでお伝えしています。

## 「書籍のご案内」

BMW技術協会顧問・長崎浩氏の著書で、農文協の民間農法シリーズから発刊された、「BMW糞尿・廃水処理システム」が再版されました。BMW技術を知らる入門編として最適な1冊です。

しばらくの間、手に入りにくい状態が続いていましたが、再版いたしました。BMW技術協会・匠集団そらのホームページのオンラインショップ（BMW技術関連商品を販売しています）からご購入できます。BMW技術のバイブル、この機会に是非、お求め下さい。



BM-shop

## 【3月の活動】

- 3日 大分県中津市にて耶馬溪ファーム関連の打合せ
- 4日 大分県日田市、中津市にて耶馬溪ファーム関連の打合せ
- 10日 大阪府枚方市の生活クラブ大阪・尊延寺センターにて、BMW技術学習会とプラント点検
  - 大阪府枚方市の生活クラブ大阪・香里支所にてBMW技術学習会
- 13日 山形県村山市のパール・ミート山形事業所にてプラント定期点検
- 14日 佐賀県唐津市の唐津ビッグファームにてプラント巡回
  - 埼玉県さいたま市のパールシステム連合会・岩槻センター、白岡市のパールシステム埼玉・白岡センターにてプラント定期点検
- 15日 佐賀県唐津市の麻生園芸を訪問
  - 福岡県糸島市の糸島BM農法研究会にてBMW技術学習会、柴田農場にてプラント巡回
- 18日 オンラインにてBMW技術協会若手幹事会の開催
- 19日 茨城県鉾田市の方波見農園、茨城町の茨城BM、水戸市のささめま333ファームにて生物活性水プラントの培養調整
  - 高知県四万十町の十和堆肥センターにてプラント定期点検
- 20日 高知県高知市土佐山の夢産地とさやま開発公社にてプラント定期点検
- 21日 高知県南国市の高知県立高知農業高校にてプラント定期点検

岡山県井原市の美星加工センター、高梁市のきじまる堆肥センターにてプラント巡回

24日 山梨県山梨市で開催された、やまなし自然塾の総会に出席

埼玉県蕨市のパールシステム埼玉・蕨センターにてプラント定期点検

25日 茨城県茨城町の茨城BMにて生物活性水プラントの補修工事

27日 千葉県千葉市で開催された、千葉BM技術協会・パールシステム千葉共催によるBMW技術学習会（第23回BMW技術基礎セミナー代替企画）

31日 BMW技術協会常任理事会、匠集団そら取締役会の開催

〔4月の予定〕

2日 大分県中津市の耶馬溪ファームにてBMWプラント導入関連の打合せ

4日 宮城県仙台市のあいコープみやぎで開催される、あいコープみやぎ農法研究会のワークショップの参加

8日 茨城県水戸市とひたちなか市にて第34回BMW技術全国交流会の会場視察

11日 静岡県掛川市でやまなし自然塾の視察研修会に参加

16日 株式会社匠集団そら第32期定時株主総会、BMW技術協会常任理事会の開催

21日 北海道の根釧みどりの会にてプラント点検

21日〜24日 ベトナム・ハノイ市にてBMWプラント設置調査

## 薬膳の話

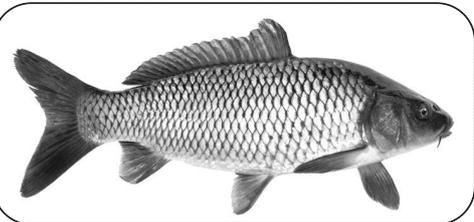
137

## 〜鯉（こい）〜

花粉の飛散が続いています。目や鼻のかゆみには、蒸しタオルを当てるのが効果的です。レンジで温めたタオルを直接目や鼻に当て、7〜8分ほど温めます。この時目と鼻は一緒にではなく別々に温めます。

血行を良くして粘膜のうっ血を解消するのは、シン、レンコン、黒ゴマ、ショウガ、ネギ、セリ、白菜などです。また、緑茶やルイボスティー、甜茶はアレルギーを抑制する効果があると言われています。甘いもの、唐辛子などの刺激物、酒類は控えるにします。

中国では3000年前から食用にされてきました。鯉の味は長流に棲むものが一番美味で、次に大きな湖といえます。ウロコが36枚程あるため「三十六鱗」や「六六魚」りくりくぎよ」とも呼ばれています。こいのぼりを飾るのは、中国の故事「登竜門」が由来とされています。黄河の上流にある急流（竜門）を登り切った鯉が龍になって天に上るとい話です。江戸時代の武家は、滝登りの鯉を出世の象徴として、我が子の立身出世を願ひ5月5日端午の節句にこいのぼりを立てました。



五味は「甘」、四気は「平性」、帰経は「胃、すい臓」です。口の渴きを癒し、咳を止めます。利尿作用に優れ、むくみや尿の出の悪い時に利用します。母乳の出をよくする働きが有名で、鯉を味噌味で煮込んだ「鯉こく」は妊娠・授乳中に最適です。鯉に含まれるタウリンは4割ほど煮汁に溶け出すので、汁ごと取るようにします。ルテインも含まれ、目の網膜に作用して症状を改善する働きがあります。旧約聖書のトビト記には、天使ラファエルに「鯉の胆嚢を目にできた白い膜に塗り、息を吹きかければ目は治る」と言われたトビアがその通りにしたところ、父トビトの視力が回復したとあります。

胆嚢は苦玉と言われ、鯉毒が含まれていて食べられません。加工したものは「鯉胆くわたん」という生薬として視力改善、滋養強壮、消化促進に使います。苦玉は調理の際には必ず取り除きます。調理中に漬れると、全体に強い苦味が回り食べられなくなります。

薬用魚とも言われ、たんぱく質やビタミンB群の他、疲労回復に役立つアミノ酸のアルギニン、保湿力を保つヒアルロン酸、血液をサラサラにするDHAなどが含まれています。

◎BMW技術協会事務局 佐々木エリカ  
北京中医药大学日本校薬膳養成学科卒業。中薬膳士、総合漢方研究会会員。昭和漢方生薬ハーブ研究会会員。